



The Federation of Japan Amateur Orchestras Corp.

発行所:(社)日本アマチュアオーケストラ連盟

発行責任者:森下 元康

〒441 8028 愛知県豊橋市立花町46 光陽ビル3F

電話(0532)33 6885 FAX(0532)33 6875

e-mail: info@jao.or.jp http://www.jao.or.jp/



vol.52

## 故高円宮殿下の思い出と高円宮妃殿下新総裁をお迎えして

どのフェスティバルでも「どうしてアマチュアオーケストラは難しい曲ばかり選ぶんですか?」と言われて私の方にはっこりされるたびに「私が選曲したわけでは……」といつも言い訳の係でした。「ピッチをもっと厳しく合わせなさい。単なる儀式ではいけません。」冷や汗ばかりのフェスティバルにもう殿下のお姿はありません。

11月21日は夜にヨーヨー・マに会ってレッスンを受けられる予定だったとか。アマチュアオーケストラフェスティバルにはもう10年前からご来臨いただき、遠慮のないJAOの参加者はそれ写真だ握手だと、そばにいる私ははらはらし通してました。

ご自身のチェロの演奏はもとより、指揮もされた殿下は厳しい評論家でもありました。技術的に高いレベルの演奏でも何かが伝わってこない演奏にはお褒めのお言葉が無く、拙くとも熱意が伝わる演奏には熱い拍手をおくられていました。一方ユーモアや茶目っ気たっぷりの一面もあって、沖縄大会での打ち上げ二次会では沖縄県警の許可をもらわないとホテルから出られないので困っていたら「なあと森下先生心配ないよ。先生が止めたんだけどいつの間にか出かけてしまったといっておけば」との仰せ。そんなわけにもいきませんので40分という約束でご案内しました。ところが感激した沖縄のメンバーが帰してくれません。私がお傍に近づくと「僕はまだ帰らんよ」を連発され困ったこともありました。

昨年11月28日は赤坂の御用邸でのお通夜があり、連盟を代表して私と横田行雄副理事長が列席いたしました。時々お伺いした時に通される応接室がお通夜の会場となり、1グループ40数名が参列しました。私たちのグループには橋本、森前首相をはじめ、森山、川口、竹中大臣、安部官房副長官等の姿もあり、どなたも沈痛な面持ちで列席されていました。御用邸の帰り道は遠く、私と横田氏は邸内の暗い道を肩を落として歩き続けました。

翌日29日は神野信郎会長のお供をして7時50分に赤坂の御用邸に到着。バスにて豊島岡墓地葬場へむかいました。式は10時からでしたが各界の代表者、海外の大使公使さらに宮家の方々の到着前に着席していなければならないので、およそ1時間半ばかり待ちました。そしてお棺の到着と同時に葬場の儀が始まりました。参列者およそ900名の一同起立着席を何度も繰り返し、祭詞というところにさしかかりました。ここで初めて神主が殿下の生い立ちからご留学、結婚並びに数々のご業績が述べられました。そしてあまたの団体の総裁や名誉総裁の段で「(社)日本アマチュアオーケストラ連盟の総裁をはじめとし……」という祭文があり、筆頭に当連盟の名が読み上げられた時は会長と顔を見合わせ驚きを禁じ得ませんでした。そして胸の奥からあついものがこみ上げて参りました。この祭文はどなたが

文案を練られたかはわかりませんが細部については妃殿下に確認されたことは間違いなく、殿下が私たちに「今後もしっかり頑張って音楽活動の普及と発展に尽くしなさい」とおっしゃっているように聞こえ、涙をとめることができませんでした。毎年のフェスティバルでいつも私たちを励ましていただいた殿下に、もうお会いすることはかないません。しかし私たちはこれからも苦難に直面した時は殿下の温顔を思い出して乗り越えて行きたいと思います。

悲しみの冬が過ぎ、4月14日に神野信郎会長と横田行雄副理事長そして私の三名は東京元赤坂の高円宮邸に高円宮妃殿下をお訪ねしました。応接室はあの悲しみに包まれたお通夜と同じ部屋でした。壁には故高円宮憲仁親王殿下のサッカーの勇姿、端正なチェロを弾かれている写真等が飾られていて、どれを見ても感慨を禁じ得ませんでした。

久しぶりで妃殿下にお会いする前は、さぞかしおやつれではと心配していたのは杞憂でした。以前のように闊達で気品のあるお姿を拝しほっといたしました。「私は殿下のように音楽には詳しくありませんが」とおっしゃりつつも(社)日本アマチュアオーケストラ連盟の総裁継承を快諾していただきました。

本年の横浜大会にはレセプションにご光臨賜ることになりました。コンサートは11月の一周忌までのご遠慮なさることです。そして私たちの日本マスターズオーケストラキャンプについては誠に嬉しいことに、来年の第4回から高円宮メモリアルと冠して殿下のご遺志を継いで行くことになりました。高円宮憲仁親王殿下、そして新総裁に就任された高円宮妃殿下、いつまでも私たちのJAOを見守ってください。

(社)日本アマチュアオーケストラ連盟

理事長 森下 元康



新総裁に就任された高円宮妃殿下

# 村上正治副会長、永遠に……



日本アマチュアオーケストラ連盟の設立者のおひとりである村上正治副会長が4月25日、永眠されました。高円宮殿下に続いて当連盟は大きな支柱を失いました。故人とともに歩んでこられました森下理事長、横田副理事長、服部理事にご寄稿していただきました。

私と村上正治先生との出会いは、私が26歳の時で昭和37年（1962）の初冬でした。その年第1回NHK器楽合奏コンクールが開始され、私が赴任していた愛知県豊橋市立羽田中学校のリードオーケストラ部（足木準治副理事長はこのときのメンバー）が全国一位になった年でした。

肩から斜めにショルダーバッグをかけた先生はまだお若く、何か初対面という感じがしませんでした。音楽室で演奏を聞いていただいた後、なげなしの予算で買ったパール製のティンパニーをなでながら「森下先生、これは皮の張り方が反対だよ」と教えてくれました。その時の全国2位は佐治薫子先生の学校で、以来私たちの羽田中学校と千葉の名門中学とのデッドヒートが20年にわたって繰り広げられました。

今から考えると私たちの尊敬すべきライバルたちは、いずれも何らかの形で村上先生の薫陶を受けており、わたしにとって千葉県というところは越えがたい山塊のようにも思えました。その後この羽田中学校のOBを中心にできたのが現在の豊橋交響楽団で当時から40数年の星霜が流れました。

昭和47年、私は現会長の父君神野太郎氏と共に全国に連盟の設立を呼びかけました。真っ先に呼応してくれたのはもちろん村上先生で、東京都のアマチュアオーケストラ

に無視されていた私たちに「地域から固めていくのが正攻法」と23団体の結束を訴えられました。

それからの村上先生との二人三脚でどのくらい歩いたことでしょうか。東京へ行くと先生の運転であちこちに陳情に歩き、ときには丸一日空振りの日もありました。次第に連盟も大きくなってきてはいましたが、村上先生は全国のもう一つの組織への活動が忙しくなり、お年を忘れての活躍ぶりにははらはらしていました。

4月14日、高円宮妃殿下新総裁ご就任の朗報を届けようと、旭市の病院にお見舞いに行きました。とてもしっかりしておられ、私が手を握りながらお話すると「それはよかったよかった」と本当に嬉しそうに頷いておられました。あの手の温かみからこんなに早い訃報を聞くとは夢にも思いませんでした。万感胸に迫ってうまく申しあげられませんが、私の音楽活動の父であり、（社）日本アマチュアオーケストラ連盟の尊父であった村上正治先生のご遺志をけっしておろそかにしないようここにお誓いします。村上先生安らかに。

（社）日本アマチュアオーケストラ連盟

理事長 森下 元康

(社)日本アマチュアオーケストラ連盟副会長、村上正治先生が4月25日午後12時33分、安らかに昇天されました。

一昨年脳梗塞で倒れられ、その後、療養に努めていらっしゃり、回復の兆しも見えていました。然し、同時に内蔵の支障も見つかり、入退院を繰り返され、御子息、信乃氏が病院長を務める千葉県旭市の国保・旭中央病院での懸命の治療も空しく、亡くなられました。胃癌でした。享年88才でした。

葬儀は先生が敬虔なクリスチャンであり、又、生前からのご意志として、教会での式を望まれたことで、4月28日昇天前夜祭、29日日本葬として、東京、飯田橋、富士見町教会で行われ、約1,000名の故人を慕う方々が参列され、手向けの花を棺に捧げました。

村上先生は新潟県村上町でお生まれになり、国立音楽大学作曲科に入学して、卒業後は市川小学校をはじめ、中央国民学校や市川高等女学校、市川第一中学校、第二中学校などに勤めながら、市川文化会を起ち上げ、名演奏家との演奏と話、当時の大家・声楽家の田家文子、又、弦楽四重奏夢の共演、バイオリン江藤俊哉、渡辺暁雄、ピオラ松浦

君代、チェロ齋藤秀雄等、一流の演奏を市民に提供しました。その後、市川交響楽団協会を結成、市川混声合唱団、市川交響楽団、市川交響吹奏楽団、市響ジュニアオーケストラ、行徳混声合唱団が所属団体としてその指導にあたられました。また、千葉県音楽研究会、千葉合唱連盟、県吹奏楽連盟、県音楽振興協議会、千葉交響楽団協会、県及び市川市の両芸術文化団体協議会を組織し、文化振興に貢献されました。過去に市川市教育委員会、千葉県教育委員会、千葉県知事、文化庁長官より各文化功労賞を受賞し、1987年秋、勲四等瑞宝賞を受賞、92年には第1回の市川市民栄誉賞を受賞されました。

村上先生の御功績はあまりにも大きく、私ども市川交響楽団協会としても深い悲しみにつつまれています。来る7月20日には当協会として追悼演奏を行い、引き続き「偲ぶ会」を開催の予定です。終りに皆様の生前の御厚情を深く感謝し、報告と致します。

市川交響楽団協会  
理事長 横田 行雄



平成7年9月、法人設立記念祝賀会にて



平成14年8月、フェスティバル新潟大会にて

JAOの副会長であり、千葉交響楽団協会理事長であられた村上正治先生が、去る4月25日88歳で亡くなられました。先生は、全日本文化団体連合会、千葉県芸術文化団体協議会の会長など、多数の役職を通して文字どおり我が国文化の発展に渾身の努力を重ねてこられました。しかし、その原点は、地元市川交響楽団(市響)であり、オーケストラ活動でありました。

私は、昭和43年に習志野フィルを創設する際に種々ご指導いただいたのが、先生との最初の出会いでした。当時の千葉県のアマチュアオーケストラは、戦後昭和26年から活動している市響のみでしたから、私共が新しくオーケストラを結成することを心から喜んで下さいました。この時はオーケストラ運営上の問題点や留意点を細かくご指導いただき、又、第1回定期演奏会には多くの市響メンバーを派遣下さり、その演奏を心配そうに聴いておられたのを

思い出します。昭和50年代に入り、千葉県内には続々と各地にオーケストラが誕生することになり全国有数のオーケストラ県となりましたが、「広く県内各地にオーケストラ活動を広げよう」と提唱された先生の志が花開いたものと言えます。以後、千葉交響楽団協会理事長として今まで我々をご指導下さり、その発展にご尽力下さいました。

先生は常に「次代を担う青少年の為に優れた芸術を...」「アマ・オケは自分が楽しむだけでなく地域に奉仕しなければならない...」とおっしゃっておられました。我々は、この精神をどこまで引き継いでいけるか分かりませんが、先生の築かれた「音楽文化の火」をますます燃やし続けていくよう心掛けて行く使命があるものと思います。

心から先生のご冥福をお祈りいたします。

千葉交響楽団協会  
前事務局長 服部 驍

# 文化の行き交う港・ヨコハマへようこそ！

～横浜大会に寄せて～

横浜みなとみらいホール（大ホール）

「横浜市歌」 作詞：森 林太郎（鷗外）  
作曲：南 彪衛

わが日の本は島国よ  
朝日かがよう海に  
連なりそばだつ島々なれば  
あらゆる国より舟こそ通え

今はもも舟もも千舟  
泊まるどころぞ見よや  
果てなく栄えてゆくらんみ代を  
飾る宝も入りくる港

されば港の数多かれど  
この横浜に優るあらめや  
むかし思えばとま屋の煙  
ちらりほらりと立てりし処

（当用漢字・新仮名遣いに改め）



横浜交響楽団 理事長 小磯 智功

明治42年の横浜開港50周年記念事業として横浜市の「市章」と「横浜市歌」が制定されました。百年近く前のこの種の歌曲としては詞・曲ともに芸術歌曲としての評価にも十分耐えうるものと思います。

機会があれば是非聴いて欲しいものです。

今年は、ペリー来航150年・横浜開港144年・ヨコハマアマチュア管弦楽団結成120年・横浜交響楽団創立70年・神奈川県音楽堂開館50年・横浜みなとみらいホール開館5周年に当たっています。

明治15年（1882年）ヨコハマアマチュア管弦楽団が結成されロッシェーニの「タンクレディ」序曲やハイドンの交響曲第94番「驚愕」などで第1回演奏会を開催して120年。外国人居留地の外国人中心の管弦楽団でしたが、関東大震災でその活動の中止を余儀なくされてました。震災後10年ようやく落ち着きを取り戻した頃、小船幸次郎らが今度は日本人中心のオーケストラを創ろうと昭和7年（1932年）にプロ・アマ混成の横浜交響管弦楽団を結成し、翌年7月1日第1回定期演奏会を同じくハイドンの「驚愕」やワーグナーの「ジークフリートの牧歌」ほかを掲げて交響楽活動を開始しました。

この第1回のコンサートは成功したものの当時の職業演奏家は「シンフォニーでは飯が食えない」と脱退して熱心なアマチュアだけが残り、活動を続けて今日に繋がっているものです。戦時中、灯火管制の薄暗い明かりの中で、まだ学生だった黛敏郎もコントラバスを受け持って熱心に練習に参加していました。

それから間もなく終戦直後、日々の食糧さえ思うに任せない時代、東京でも日比谷公会堂しかなかった時代に焼け野原の街と横浜港を見下ろし、かつて栄えた太平洋航路・アメリカ航路に思いを馳せながら当時の神奈川県知事・外交官でもあった内山岩太郎は横浜市歌の最後の句を思い浮かべたに違いありません。この紅葉ガ丘に立派な音楽堂を創ろうとの英断で開国百年の1954年（昭和29年）東洋一と言われた神奈川県立音楽堂が建てられました。

横浜交響楽団はこれを契機に、そこを本拠にアマチュアでは考えられない定期会員制による毎月定期公演に踏み切り

ました。現在も年間8回の定期演奏会を開催して、地道に底辺を広げて音楽ファンを増やすのがアマチュアの使命、誰でも弾いたり聴いたりできる「市民のオルガン」でなければならぬとする小船幸次郎の遺志を引き継いで今日に至っています。また、オーケストラは合唱団も併せ持つべきと言うのが小船の持論で、現在は150人を越える合唱団とともにオペラや宗教曲にも多くのレパートリーを広げました。

つい先日の6月15日に創立70周年記念の第568回定期公演を終えたところですが、その分第31回全国フェスティバル横浜大会の準備が大重となりました。

昨年の開催地は、北前船で栄えた北の玄関新潟。その歴史・伝統とは比較しようもなく、おいしいお米もお酒もない僅か150の歴史の横浜、日本の新しい玄関として開港した当時は「苫屋の煙がちらりほらり」という僅か100戸足らずの漁村・寒村でした。

開国後急速に発展し、特に戦後は東京のベッドタウンとして急激に膨張し、人口だけは350万を擁する日本一の大都市となりました。貧しい中いち早く音楽堂が建立された横浜ですが、県の施設としての音楽堂と県民ホールの他は、「横浜みなとみらいホール」ができる最近まで横浜市が所有する1,000人規模のホールは、ステージの狭い講演会場向きの「関内ホール（市民ホール）」1館だけという文化寒村でした。

幸い、「横浜 よこはま ヨコハマ」と響きの良い印象の地名、また、歴史にこだわらない分、「三日住めば浜っ子」と常に門戸を開き、進取の気風満ちた国際港都としてのイメージが培われてきたと思います。

昨年、高円宮憲仁親王殿下の突然のご逝去、「来年の横浜の日程は手帳に入れましたよ」と仰っておられたのに、また種々の理由で外国からの青少年オーケストラ招致が実現しなかったことは国際都市横浜としては心残りです。

「ますます発展してゆく日本の将来を彩るに相応しい豊かな文化も入ってくる港」と鷗外が謳ったように、文化も行き交う港として、今度は横浜から日本中にそして世界に「みなとみらいホール」を通して新たな文化を発信し、裏方役としては不慣れですが、文化都市としての一翼を担う気概で今回の横浜大会をホストしたいと思います。

ようこそ 新しい横浜へ！

# 第 17 回通常総会・理事会開催

(社)日本アマチュアオーケストラ連盟の第 17 回通常理事会、総会は去る 5 月 10 日、東京上野精養軒にて開催された。

当日は全国各地の 54 団体の代表者(そのほか委任状提出 78 団体)が集まり熱心な討議がなされた。

総会に先立つ午後 1 時から理事 14 名(そのほか委任状提出理事 5 名)、監事 1 名の出席を得て第 17 回通常理事会が開催された。そこで総会に上程する案件が審議され、いずれも原案通り上程することが承認された。

総会は午後 3 時から始まり、冒頭、神野信郎会長の提案により、去る 4 月 25 日になくなった当連盟副会長の村上正治さんに対し、哀悼の意を表し、全員で 1 分間の黙祷を捧げた。続いて神野信郎会長は挨拶の中で、村上副会長の当連盟創設に対する功績や音楽教育に対する情熱的人生、またその誰にでも慕われたお人柄を悲しみとともに話された。村上副会長のご遺志を継ぎ、これからも一層、当連盟の充実をはからなければならないとの決意を表明した。

総会は、定足数の確認、議事録署名人の選出に続いて、神野会長が議長になり、第 1 号議案「平成 14 年度決算案」の審議に入った。事務局から詳しい説明がなされ、議長が賛否を諮ったところ、同案は満場一致で承認された。(別掲)

続いて第 2 号議案「高円宮憲仁親王妃久子殿下、総裁推戴について」審議し、満場一致で同案は承認された。

続いて報告事項に移り、「第 31 回全国アマチュアオーケストラフェスティバル横浜大会」について横浜交響楽団の小磯実行委員長から現在の進捗状況について報告があった。また 3 月に神奈川で開催された「第 19 回トヨタ青少年オーケストラキャンプ」について青少年オーケストラ委員会の土田委員長から、実施報告があった。そのほか日本マスターズオーケストラキャンプトヨタコミュニティコンサートについて説明、報告等がなされた後、午後 4 時 40 分、議長は予定された議事がすべて終了したことを報告し、閉会を宣した。



平成 14 年度  
社団法人 日本アマチュアオーケストラ連盟  
収支決算書

自 平成 14 年 4 月 1 日  
至 平成 15 年 3 月 31 日  
(単位: 円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
<b>I 収入の部</b>				
1 基本財産運用収入	(35,000)	(17,446)	(17,554)	
基本財産利息収入	35,000	17,446	(17,554)	
2 入会金・会費収入	(10,410,000)	(10,460,000)	(50,000)	
入会金収入	30,000	30,000	0	1団体
正会員会費収入	7,750,000	7,800,000	50,000	156団体
賛助会員会費収入	2,630,000	2,630,000	0	30社・団体、1個人
3 事業収入	(10,891,000)	(10,626,175)	(264,825)	
全国大会事業収入	5,357,000	5,357,175	175	入場料・広告料・参加料他
青少年キャンプ事業収入	4,150,000	3,885,000	265,000	参加料
マスターズキャンプ事業収入	384,000	384,000	0	参加料
機関誌発行等事業収入	1,000,000	1,000,000	0	広告料
4 補助金収入	(36,890,000)	(36,980,000)	(90,000)	
地方公共団体補助金収入	4,000,000	4,000,000	0	新潟県、新潟市
民間助成金収入	32,890,000	32,980,000	90,000	日芸文、日音財、トヨタ他
5 雑収入	(403,000)	(416,333)	(13,333)	
受取利息	3,000	1,333	1,667	
雑収入	400,000	415,000	15,000	懇親会費
当期収入合計(A)	58,629,000	58,499,954	129,046	
前期繰越収支差額	10,946,745	10,946,745	0	
収入合計(B)	69,575,745	69,446,699	129,046	
<b>II 支出の部</b>				
1 事業費	(44,233,000)	(43,459,530)	(773,470)	別紙事業費内訳参照
臨時雇用賃金	300,000	300,000	0	
福利厚生費	5,756,720	5,086,587	670,133	
会議費	3,921,000	3,872,576	48,424	
旅費交通費	15,184,360	15,197,267	12,907	
通信運搬費	1,538,000	1,480,006	57,994	
消耗品費	1,812,000	2,004,458	192,458	
印刷製本費	2,315,000	2,030,659	284,341	
賃借料	4,202,659	4,361,165	158,506	
損害保険料	159,600	143,930	15,670	
諸謝金	7,528,541	7,367,831	160,710	
広告宣伝費	543,000	543,100	100	
雑費	972,120	1,071,951	99,831	
2 管理費	(14,530,000)	(14,620,404)	(90,404)	
役員報酬	4,800,000	4,800,000	0	
給与手当	1,050,000	1,000,000	50,000	
諸謝金・臨時雇賃金	110,000	106,000	4,000	
福利厚生費	30,000	2,684	27,316	
会議費	1,430,000	1,405,359	24,641	
旅費交通費	1,550,000	1,723,962	173,962	
通信運搬費	900,000	950,178	50,178	
消耗品費	700,000	684,592	15,408	
渉外費	170,000	165,833	4,167	
印刷製本費	150,000	141,750	8,250	
光熱水料費	190,000	180,205	9,795	
賃借料	2,740,000	2,734,642	5,358	
災害保険料	6,000	5,590	410	
租税公課	24,000	24,000	0	
雑費	680,000	695,609	15,609	
4 特定預金支出	(1,230,000)	(1,230,800)	(800)	
基本財産積立金	30,000	30,000	0	
特定預金積立支出	1,200,000	1,200,800	800	2005年万博関連事業費
5 予備費	0	0	0	
当期支出合計(C)	59,993,000	59,310,734	682,266	
当期収支差額(A)-(C)	1,364,000	810,780	553,220	
次期繰越収支差額(B)-(C)	9,582,745	10,135,965	553,220	



鹿児島交響楽団は1973年3月に地元の音楽家愛好家の強い要望で、設立されました。「かきょう(鹿響)」の名前で広く県民に親しまれています。同じ頃に鹿児島オペラ協会も発足し、毎年1~2回のオペラ伴奏も鹿響がやることになっています。アマチュアオーケストラで毎年必ずオペラの演奏をしている楽団も珍しいのではないかと思います。

団員の構成は一般から大学生まで幅広い構成です。現在約120名の団員がいます。弦楽器は時々不足することがありますが、ほぼ団員でまかなえる状況にあります。創立当時の皆さんの尽力により楽団所有の楽器(打楽器、チェレスタ、コントラファゴット、コントラバスなど)はかなり充実しています。コントラバス7台のうち5台はペールマン(5弦も2台)がそろっています。プロのコントラバス演奏者も鹿児島では鹿響の楽器を使われる方も居られます。これらの楽器を見ると楽団創立当時の関係者の熱き思いが伝わってきます。ハーブ奏者も団内で育ってきており、いろいろな曲に対応できるようになってきました。

今年は楽団創立30周年を記念してイタリアのナポリ(鹿児島市の姉妹都市)で「第九」の公演を企画しています。指揮者の星出豊氏のお力添えもあり、演奏会場のサンカルロ劇場に決定し、その準備に追われているところです。現楽団長 十島擁蔵氏の「法人化して初めて社会に認められる人格が得られるのです。」の言葉で力づけられながら、すべての書類を提出し終わり、現在、県の認可を待っているところです。

指揮者については常任指揮者の形態はとっていません。年2回の定期演奏会のうち1回は県外からプロの指揮者をお願いし、もう1回は地元の指揮者(団員の中から)という形をとっています。

また、鹿響にゆかりのあった方々が国内外で活躍しておられます。鹿響でトランペットを吹いておられた下野竜也さんはプザンソンの指揮者コンクールで優勝されました。また打楽器の末廣誠さん、トロンボーン尾崎晋也さんも指揮者として活躍中です。今回の60回定期演奏会に出演していただく原田さんも「県民第九」などで鹿響の演奏会に中高生の頃から出演していただきました。現在仙台フィルの首席奏者として活躍中です。私たち団員はこれらの鹿児島出身の方々の活躍を誇りに思っています。

【2003年度の主な演奏会】

第60回定期演奏会

6月29日(日)鹿児島県文化センター 15:00-

指揮:キンポー・イシイ=エトウ

チェロ:原田哲男

チャイコフスキー/ロココ風の主題による変奏曲

ベートーベン/交響曲第5番「運命」

鹿児島オペラ協会公演

9月13日(土)~14日(日)鹿児島県文化センター

「椿姫」

県民第九

12月14日(日)鹿児島県文化センター

指揮:星出豊

ベートーベン/交響曲第9番「合唱付き」

第61回定期

12月30日(火)サンカルロ劇場 ナポリ

指揮:星出豊

ベートーベン/交響曲第9番「合唱付き」

2月 帰朝演奏会

3月 小・中学生のための音楽教室

全国転勤族も団員の中にいます。鹿児島に転勤になられても楽器だけは手放さずに赴任してください。お待ちしております。(文責:中島省三)



Photo:Masashi Nakama

鹿児島交響楽団事務局

〒892-0853

鹿児島市城山町2-30

二之丸ビル205号

TEL/FAX 099-223-3093



Photo:Masashi Nakama



藤沢ジュニアオーケストラ

Fujisawa Junior Orchestra

藤沢ジュニアオーケストラは1983年2月に創立され、主に神奈川県に在住の小学生から中・高校生までの青少年で構成されています。年一回の定期演奏会のほか、地域の音楽祭への参加やメキシコ、中国への海外演奏旅行などを行い、オーケストラという団体活動を通して音楽的のみならず人間的、社会的にも健全に成長することを願って活動しています。メンバーは約60名、練習は毎日曜日の午前中です。江ノ島に近い鶴沼公民館が練習場です。夏になると公民館の近くはサーファーでいっぱい!! すぐ近くの海には色とりどりのサーフボードが浮かびます。また夏季合宿は神奈川県藤野の県立芸術の家などで行っています。当団は現在、NHK交響楽団アシスタントコンダクターの岩村力氏を指揮者に迎え研鑽に努めています。

2002年には、ヴァイオリニスト五嶋みどり氏の「第一回オーケストラ訪問」を受けたほか、創立20周年記念定期演奏会として巨匠イヴリー・キトリス氏を招いてチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲やシベリウスの第2交響曲などを演奏しました。

また2003年3月には、神奈川県葉山町の湘南国際村で行われた第19回トヨタ青少年オーケストラキャンプ(TYOC)(2年クールの1年目)にホストオーケストラとして参加しました。第20回TYOC in Kanagawaの演奏会は2004年3月28日(日)に横浜みなとみらい大ホールで開催されます。大勢の方々のご来場を心からお待ちしております。

日本全国  
アマオケ街道  
私の町  
私のオケ

シリーズ 第八回

【今後の演奏会】

第21回定期演奏会

2003年9月23日(火・祝)午後2時開演

於藤沢市民会館大ホール

曲目:ドヴォルザーク作曲 交響曲第9番「新世紀より」ほか

お問い合わせ

団長 村岡一恵

神奈川県藤沢市渡内2の14の18

TEL 0466-26-7459 FAX 0466-26-7452

URL <http://www.ne.jp/asahi/fujisawa-junior/orchestra>



## 神奈川キャンプ 大盛況!!!



熱心に指揮をされる渡邊先生



去る3月26日から29日の4日間、今年で19回目となるTYOC(トヨタ青少年オーケストラキャンプ)が神奈川県の湘南国際村にて開催された。指揮者に東京フィルハーモニー交響楽団指揮者である渡邊一正氏をお迎えし、研修曲にはトーマ作曲“レイモン序曲”、コダーイ作曲“ガラタ舞曲”、シヨスタコービッチ作曲“交響曲第5番「革命」”と今回も難曲ぞろいの充実した内容のキャンプであった。今回は首都圏で開催され

たためか参加の申し込みが殺到し、参加者が約170名に及ぶ大盛況のキャンプとなった。しかしTYOC前日、音楽監督である森下元康氏の親族にご不幸があり、音楽監督不在のTYOCとなってしまった。音楽監督不在という不安を抱えながらも、青少年委員会の先生方のご協力や実行事務局のご尽力があったからこそ、すばらしいキャンプにすることができたのではないだろうか。

# 「第19回トヨタ青少年オーケストラキャンプを振り返って」

第19回トヨタ青少年オーケストラキャンプ実行事務局 竹口 裕子

今日は6月にもかかわらず、カラッとして爽やかな風が家の中にも入ってきます。

そういえば、第19回トヨタ青少年オーケストラキャンプの運営委員長他数名の若者に初めて会ったのは一年余り前の4月末のこんなお天気の日でした。

前回の宮崎大会よりキャンプをいろいろな地方で開催するという趣旨のもと、その二番目として神奈川県での準備を進めてきました。しかし、何から何まで全てが初めてのことで、だれに何を聞けば何が分かるのかも分からない、まさしく暗中模索とはこのことを言うのでしょうか。

そんな時、数人の頼もしい若者たちに出会ってたくさん話をするうちに、大きな方向が定まったのを覚えています。

それは、世にいう“情報公開”ということでした。つまり、なにもかもオープンに情報を出して相談して、出来ることも出来ないことも一緒に考えてもらおう、そして小さいことでも出来ることは全て実現させよう、と。ひとつのイベントにむけてプロジェクトチームを立ち上げたなら、それぞれの立場でかかわっている人間が、持っている情報、意見を出し話し合っ、積み上げていくことの大切さを培ってみたい、と考えました。と同時に何も分からない事務局はこの方法で手探りでゴールに向かって走り出すしかない、とも考えたわけです。

そんな形で、一步一步始まったキャンプですが、やはり押し寄せる難題の連続でした。なかでもなんと言っても一番は、大幅な定員オーバーという嬉しいけれど致命的な問題です。食堂に入りきれない、総合練習場のスペースは足りない、宿泊のためのベッドも足りない。この難題を、研修会場となる湘南国際村センターと何回も相談してエキストラベッドの増加、食事会場の増設を決定。そして、各セクションのチーフ達が工夫に工夫を重ねて見事に乗り切りました。

また、今回は森下先生のお母様のご不幸があり、先生のいらっしやらない、寂しい開会式でした。どこかいつもと違った感じがしていたのは私だけではないでしょう。そして、恒例の最初の総合練習を分奏に変更せざるを得ないことで、またまた問題発生です。分奏するための部屋がないのです。これも有難いことに湘南国際村のご好意で、本来は借りることが出来ない部屋を提供していただき、綱渡りのような練習日程の変更でした。このキャンプの自主運営の過程と一緒に歩いてきてくれた会場の担当者が、何とかしてあげよう

と奔走してくれた結果です。一生懸命取り組んでいる姿は、周りの人の心も動かすものです。しかし、このため事前会議で案を練って準備してきた練習場の割り振り、譜面台、椅子の移動手順の大幅変更を余儀なくされてしまい、黙々と対応をしている練習セクション運営委員の四苦八苦を見ながら、「がんばれ!!」とエールを送ったものです。

二日目、指揮者の渡邊先生がお見えになって、合奏の華々しい音が練習場に響き渡ると、足掛け3年に渡って準備してきた過程、この数ヶ月の出来事が走馬灯のように目に浮かび、涙が溢れました。本当に、ここまでやってきた、やっとこの音を聴くことができた、この音を聴くために準備してきたのだ、という思いで胸がいっぱいになったのです。さらに感動したのは、絶対に入りきらないと思っていた人数が、なんと練習会場に、完璧に並びきっているではありませんか。すごい!!これも優秀な運営委員達の成せる業です。そして、これで第19回TYOCでの私の仕事はほぼ終了、後は事故なくキャンプを終了させるのみでした。

さて、私が目論んだ情報公開作戦は? というと、どうだったでしょう。とりあえずこの作戦によって、実行事務局としては一回目のキャンプにはたどり着きました。抜け落ちた山のようにあり多くの方々にご迷惑をおかけしましたが……。今はまだクールの道半ばです。折り返し地点でなく小休止の後さらに急な坂道を登ることになります。しかし、キャンプで見せてもらった子供たちのキラキラした目にもう一度会いたくて頑張ろうと思っています。また、一人でも多くの青少年に、それぞれのチャンスを提供できれば……と考えています。キャンプはオーケストラをその手段として、音楽はもちろんですがその他にたくさんの事を学び経験できるチャンスです。ここでしかできない体験がいっぱいあるのではないのでしょうか。

そして、来年はいよいよ演奏会です。昨日、ケルン放送交響楽団の演奏を“みなとみらいホール”で聴いてきました。やわらかい心地良い響きに関しては絶品のホールで、ここで演奏会を……と思うと体が熱くなる思いです。

キャンプに参加される皆さん、今年味わった感動を忘れないで、たくさん練習してきて下さい。そして素晴らしい音楽を仕上げ、みんなでいい演奏会を作り上げましょう。

この湘南の地でこころをこめて準備をして皆さんをお待ちしています。

## 第19回TYOCの記録

26日、参加者はそれぞれの団の指導者に引率され湘南国際村に到着した。もう何度も参加している参加者も数名おり、顔なじみという感じだ。しかし、今回は初参加の人が多く、年齢層も今までと比べてぐんと下がった。急な事情で2日目の夜まで指揮者不在の状態

となり、最初は弦楽器と管打楽器別のセクション練習からとなった。研修曲が難曲ぞろいであったので、セクション・パート練習で全体練習に向けて小さなまとまりを固めていくといった形となった。



ホルンのパート練習。じゃあそっちから順番に

ヴィオラのパート練習



パーカッションのパート練習



ヴァイオリン・ヴィオラの合同練習



2ndヴァイオリンのパート練習



フルートのパート練習

27日夜、指揮者の渡邊一正先生をお迎えして初めての全体練習が行われた。ほとんどが初めて出会ったばかりのメンバーの集まりでの最初の合奏。その音は2日間の準備が効いており、全体としてまとまりつつあった。最初の合奏としては上出来といったところか。

指揮者が到着してからは、予定していたよりも全体練習に時間が割り当てられた。そして2日間の遅れを取り戻すかのように、演奏のレベルは急速に成長していた。



トランペットのパート練習



トランペット  
仲良く食事中



管楽器セクション練習



佐々木先生に質問



朝の宿泊施設からの景色  
富士山がきれいです



三浦先生のご指導

TYOCも終わりに近づくとつれて、参加者の交流も盛んになり、みんなで共に音楽を創っていくという意識が参加者の間に芽生え始めた。そして最終日の合奏ではTYOC 4日間の成果を十分に発揮した、まとまりのあるいい演奏をすることが出来た。これは、指揮者の先生を始めとした講師の先生方の指導があつてこそ

の結果であつた。来年のTYOCは第20回を迎え、最終日には横浜みなとみらいホールにて2年間の研修の成果の披露演奏会が行われる。参加者達は今回学んだことを生かし、来年には技術を高め再会し、すばらしい演奏会にしてくれることであろう。



最後の総合練習。集中あるのみ！



## 「クール第一回目のキャンプを終えて」

第19回トヨタ青少年オーケストラキャンプ運営委員長 鈴木 肇

運営委員長になって初めてのTYOCが終わりました。今回のTYOCでは参加団体の指導者によって推薦されたメンバーにより運営委員会を構成するということをし新しく試みました。まったく新しいメンバーで構成された運営委員に、最初はメンバーそれぞれがいくらかの不安を抱いていたのではないのでしょうか。しかし、事前の打ち合わせを重ねるにつれ、メンバーも打ち解けあい当日には結束を固めることができました。また、今回新規にメンバーを構成することにより、運営委員というものが各団の代表で参加しているという意識を改めて持つことが出来たと思います。運営委員を担った彼らが、TYOCでの経験を生かし、それぞれの団の運営面で活躍していってくれるといいなあと思っています。

また、今回のTYOCでも青少年委員会の先生方や、

ホストオーケストラである藤沢ジュニアオーケストラの父母の会の皆様にはいろいろと助言、お手伝いをいただきました。TYOCは参加者自身の運営となっておりますが、関係者の方々のご協力があつたからこそ成り立っているものだと思います。僕自身今回のTYOCを経験することで、見えないところでたくさんの人が運営を支えているんだということを強く感じました。自分ひとりでやっているのではなく、運営委員がいて、青少年委員会の先生がいて、事務局がいて、父母の会の方がいて、本当にたくさんの人の結束の上にTYOCが成り立っているんです。こんなにも人と出会え、しかも真剣に意見し合うことで互いを認め合えるようになっていける場はないのではないかと思います。このTYOCで出会えた人たちは僕にとってキャンプでだけではなくこれからもずっと大切な人ばかりです。

